

かんさい回覧板

発行責任者 榎木 邦二
編集責任者 教 宣 部

出勤遅延等を発生させた社員への 会社の対応に問題あり！

新大阪駅において8月と9月に出勤遅延が発生しました。8月の出勤遅延について、新大阪駅内誌「千成びょうたん」9月号に駅長メッセージとして記載されています。駅長メッセージは「手帳を使った次勤務確認、複数の目覚まし時計セットなど全く実施していない」「こうした事象を発生させると、駅全体のモチベーションを損ねる」「一部の社員の行動で皆のやる気を削いでしまい、その影響は駅全体にも及ぶ」と展開して、「複数の目覚まし時計セットなどは物理的な対策として有効だが、それ以前に自分の仕事に対する責任感や強い自覚を持つべきだ」と締めくくっています。

この駅長メッセージは、駅長からの出勤遅延再発防止に向けたメッセージとして当然のように思われます。しかし、当事者に対する会社の対応は、退職等に追い込むといった問題のある対応を行っているのが現実です。

社員を退職等に追い込む対応はやめるべきだ！

昨年、新大阪駅において出勤遅延が連続して発生した時に、突然「非常事態宣言」を表明しました。そして、若年社員に対しては生活面にまで立ち入った指導を行うなど締め付け的な社員管理を行いました。その時に、出勤遅延を発生させた社員が、休日にもかかわらず点呼に出て社員の前で謝罪をするといった事態も発生しています。

9月に発生した出勤遅延については、辻駅長は点呼において「社員としての資質が問われる。仲間意識を持つ必要はない」と当事者を容赦なく切り捨てています。また、管理者が「俺だったら会社を辞めるけどな・・・」と当事者を退職に追い込むような対応をしています。

このような会社の対応は、出勤遅延やミスが発生させた社員を退職等に追い込んだり、あってはなりません。自殺という悲惨な事態も想定できます。

社員がやる気になる対応をすべきだ！

出勤遅延やミスが発生させた社員が、駅長メッセージにあるような仕事に対する責任感や自覚を自ら持てるような対応をすべきです。答えは簡単です。現在、会社が行っている当事者を退職等に追い込む異常な対応をやめることです。